

市勢の発展に尽くした功績を表彰

本年度の市勢振興功労者に3人が選ばれました。市勢振興功労者表彰は、公共の福祉の増進と市勢の進展に尽くした功績が顕著な人または団体を顕彰するもので、市で最高の荣誉ある表彰です。受賞者は、学識経験者や市議会議員などで構成する

市表彰選考委員会の答申を受けて決定しました。本年度の受賞を含め、これまでに315人と24団体を表彰。本年度の表彰式は11月3日(土)、上田公民館(上田四)で開催します。

【問】総務課 ☎626-7513 【広報ID】1021192



吉田 莞爾さん

Kanji Yoshida

盛岡大通商店街協同組合理事長や市商店街連合会会長として、イベント企画運営や学生との連携による店舗運営支援など、大通商店街の活性化に尽力。また、「もりおかスクエア事業」を展開し、中心市街地の商業基盤の強化に貢献。(昭和19年生まれ・茶畑二丁目在住)

商業の振興と中心市街地の活性化

昔は、大通商店街も活気があり、若い人が出掛けるなら大通り、といわれるくらい人があふれていました。しかし、郊外への大型店舗進出などで商店街を訪れる人が減り、各店舗の後継者も減る中、大通りが衰退するのを見過ごしてはいけなく強く思うように。商店街ににぎわいを取り戻すため、映画館が複数ある大通りの特色を生かした「もりおか映画祭」や学生と連携した芸術祭など、新しいイベントを実施してきました。近所での親しい交流を表す「向こう三軒両隣」こそが商売の本質。人間関係が希薄な今だからこそ、自分さえ良ければではなく、商店街で助け合いながら、少しずつ昔のような活気を取り戻したいです。



藤澤 清美さん

Kiyomi Fujisawa

市無形民俗文化財保存連絡協議会会長として、市内外の民俗芸能の保存や継承、後継者育成などに貢献。映像などでの記録保存や市民向け手引書の執筆など、無形の文化財を後世に伝える取り組みを推進。また、三本柳さんさ踊りの復活に尽力。(昭和21年生まれ・東見前在住)

民俗芸能の継承と発展

民俗芸能に関わるようになったのは単純に好きだったからです。気付けば三本柳さんさ踊りの保存活動は今年で51年目。保存会には、子供から大人まで100人以上が所属し、年間を通して全国各地での公演など活発に活動しています。各世代が一つになって踊りを伝えるこの形が、民俗芸能のあるべき姿だと思うので、幅広い人にその醍醐味を味わってほしいです。また、市内外の各地域に口伝で伝わる神楽などの演奏を譜面に書き出す作業もしています。譜面があると、初めて練習する人にも分かりやすいんです。このような、民俗芸能を後世に残す活動を今後も続けていきたいです。



臼井 康雄さん

Yasuo Usui

市医師会会長や市学校保健会会長などとして、盛岡広域圏の一次・二次救急医療の充実・強化を図り、平成21年の新型インフルエンザ発生時には、感染拡大前から医療供給体制の確保に尽力。また、もの忘れ検診を始めるなど認知症の地域ケア体制の構築に大きく貢献。(昭和22年生まれ・松園二丁目在住)

救急医療体制の確保と認知症の地域ケア体制の構築

新型インフルエンザが発生したとき、国は、あらかじめ指定した病院のみで診る方針を出しました。しかし、市医師会では、その体制では感染拡大したときに速やかな診療ができないと考え、市内の全医療機関で診療できる体制を、いち早く整えました。また、16年前に、認知症患者がさらに増加していくと考え、もの忘れ検診を成人検診に組み込むことを市に提言しました。今では受診者が年間5000人を超え、早期発見・治療につながっています。今後は、自分も患っているパーキンソン病の患者の立場から見たまちづくりに対する意見を発していきたいです。それが患者や高齢者にとって住みやすいまちづくりに役立てばうれしいです。

もりけんに挑戦
(11ページに掲載)の答え
④盛岡駅

広報もりおかへのご意見をお待ちしています
アンケート専用フォームから、特集や各記事への意見をお寄せください。あなたの意見が広報もりおかを育てます。



編集後記

今回の特集を担当して、地元で採れるものがどこで使われているのか調べてみたくまりました。とりあえずアンバサダー店に行くところから始めてみます。(佐藤)



地球環境に配慮し、ベジタブルインキを使用しています。